

【埼玉大学総合研究機構・研究プロジェクト】

# 日本中世後期自筆古典籍に関する総合的研究

A comprehensive research on autographic classical books in Japanese late Medieval period

研究代表者: 埼玉大学教養学部教授

**武井和人**

Saitama University

Faculty of Liberal Arts

Prof. TAKEI Kazuto

## ◇研究スタッフ

[研究代表者] 教養学部・教授・武井和人

[協力研究員] 京都光華女子大学・学長・三村晃功

同志社大学・文化情報学部・教授・矢野 環

国文学研究資料館・文献資料部・助教授・小川剛生

国文学研究資料館・文献資料部・助手・久保木秀夫

東京大学史料編纂所・助教授・末柄豊

東京成徳短期大学・教授・川島絹江(平成15年度より)

宮内庁書陵部・池和田有紀(同)

お茶の水女子大学大学院・博士後期課程・高橋育子(同)

早稲田大学本庄高等学院・教諭・小林大輔(同)

鶴見大学・文学部・非常勤講師・石澤一志(平成16年度より)

埼玉大学大学院・文化科学研究科・修士課程・葭田英一(平成17年度のみ)

立教大学・名誉教授・井上宗雄(同)

お茶の水女子大学・文教育学部・助教授・浅田徹(同)

## ◇補助金等獲得の現状

①平成15～17年度・科学研究費補助金・基盤研究(B)

「中世後期南都菟蔵古典籍の復元的研究」〔課題番号:15320027〕

※研究代表者: 武井和人

②平成15年度・国文学研究資料館共同研究

「十市遠忠自筆資料群の悉皆調査とその書誌的研究」※研究代表者: 武井和人

③平成15～16年度・三菱財団人文科学研究助成

「室町後期南都菟蔵和書古典籍群の復元的研究」※個人研究(武井和人)

## ◇研究活動経過

〈平成17年〉

- 4月a 武井、思文閣より、鳥飼宗慶短冊を入手。
- 7月a 武井・井上宗雄・葭田英一「十市遠忠『百五十番自歌合』—解題と翻刻—」  
(『研究と資料』第53輯)
- b 浅田「玄誉と宣光—尊経閣文庫蔵「詠草」付載遠忠宛返答の翻刻を兼ねて—」  
(『研究と資料』第53輯)
- 8月a 第5回研究会開催。於・埼玉大学東京ステーションカレッジ。  
武井・石澤・高橋「〈遠忠自筆資料〉の筆蹟について」  
末柄 豊「文亀四年二月九条尚経亭月次和歌会懐紙について」  
井上宗雄「勅撰作者部類の編者藤原盛徳(元盛法師)について」
- 12月a 武井「天理図書館蔵『遠忠朝臣詠草』—解題と翻刻—」  
(『研究と資料』第54輯)

〈平成18年〉

- 1月a 武井「中世後期南都蒐蔵古典籍の復元的研究」(『日本歴史』)
- b 武井、東京大学史料編纂所蔵資料2点調査。
- c 久保木、国文学研究資料館蔵資料1点調査。
- 3月a 科研費「中世後期南都蒐蔵古典籍の復元的研究」報告書刊行。

主な内容は以下の通り。

### 論攷篇

- 武井和人「十市遠忠書写伝領典籍集成稿」
- 久保木秀夫「伝十市遠忠筆断簡類瞥見—老葉自注・享禄二年七月以降撰歌合・天文六年賀茂社法楽十首和歌・十番の物あらしひ、ほか—」
- 池和田有紀「十市遠忠と春日社神楽」
- 小川剛生「室町後期の一条家文書と桃華坊文庫について—兼良・冬良・兼冬の文書目録—」
- 浅田 徹「玄誉と宣光—尊経閣文庫蔵「詠草」付載遠忠宛返答の翻刻を兼ねて—」
- 石澤一志「鶴見大学図書館蔵『堀河院艶書合』(長享二年奥書本)について」
- 矢野 環「『内裏名所和歌』諸本の位相—数理文献学的処理—」
- 武井和人・高橋育子「『住吉法楽百首』攷」
- 高橋育子「十市遠忠と連歌—天理図書館綿屋文庫蔵「夢想之連歌」を中心に—」

### 翻刻篇

- 末柄 豊「国立公文書館所蔵『文亀年中記写』—附、国立公文書館所蔵『別会付五師方引付』—」
- 武井和人・高橋育子「尊経閣文庫蔵『住吉百首』・住吉大社御文庫蔵『住吉法楽百首』」
- 小林大輔「早稲田大学蔵『太神宮法楽百首』、早稲田大学・尊経閣文庫蔵『三十番歌合』」
- 武井和人「天理図書館蔵『遠忠朝臣詠草』」
- 武井和人「尊経閣文庫蔵『千首和歌』『三百六十首和歌』」
- 武井和人「内閣文庫蔵『遠忠詠草』『三輪社法楽三十首』『雪十首』」

三村晃功・武井和人・高橋育子「尊経閣文庫蔵『五十番歌合』『三十番歌合』『五十番自歌合(二種)』」

久保木秀夫「松平文庫蔵『遠忠百番自歌合』」

武井和人・三浦 智「尊経閣文庫蔵『百番自歌合』」

井上宗雄・武井和人・葭田英一「尊経閣文庫蔵『百五十番自歌合』」

#### ◇研究成果経過

今年度の主たる研究成果として、十市遠忠の自筆資料のなかに、相当数の右筆の手によるものが含まれてゐることを確認できたことをあげることが出来る。具体的には、遠忠の筆蹟と極めて類似する釜口栄暁(遠忠の右筆か、古筆切〔図版参照])・鳥養宗慶の自筆資料(短冊〔図版参照])を調査・蒐集することが出来た。遠忠自筆資料とは何か、という問題を考察する上での基本的なデータとして、活用している。

現在までの調査・研究により、従来、遠忠の自筆資料といわれて来たものは、

- ①真に遠忠自筆と断じうるもの
- ②遠忠の筆蹟に類似した右筆の手によるもの
- ③遠忠の筆蹟とは異なる右筆の手によるもの
- ④その他近親者の手によるもの

というように更に分類すべきであろうとの結論に至りつつある。南都周辺における学藝の深化の一端をここに見ることが出来よう。

